

進路だより 第3号



君たちは日ごろの授業または自宅学習でいろいろな教材を使っていると思います(まさか、置き勉強はしていないでしょう!!)。今号では君らが使っている教材について触れてみたいと思います。

教科書の活用

日ごろの学習で一番重宝する教材はやはり教科書です。理由は、センター試験の出題のレベルは教科書程度の基礎的なものであるからです。学習指導要領により高校生が学習する内容というものは決められています。だから、入試問題は教科書をネタにして作らざるを得ないのです。そうでなければ「入試に問題ミス!」とか「教科書外からの出題!!」とかいった新聞記事をみることになります。

「教科書から出る」と書いたが「教科書からソックリそのまま出る」わけではない。教科書に書かれていることがわかっているならば「解けるはずだ」というところまでの応用問題は十分にアリである。

また、「目次」の存在もあります。目次には年間を通して、学習する項目が書かれています。ここをサッと見るだけで、一年間の学習の内容や順序が分かるようになっていきます。例えば、年間の途中で見ると、「今、自分がどこにいるのか」が分かります。「次に何を学習するのか」が分かります。「以前にどんなことを学習したのか」が分かります。つまり、自分の「分かる場所」や「分からない場所」が簡単に分かります。時々目は通して、「自分のわかり具合」を点検することが大切です。

問題集の活用

教科書の問題を解いていくうちに(解けるから)飽きてしまうが、問題集は量が多いので手をつけられない生徒がいると思います。何も一問一問を最初から真面目にやっていく必要はありません。例えば、基本問題、標準問題、応用問題と分かっていたら、まずは基本問題を全部一気にやる、次に標準という感じでいくべきでしょう。早く問題集が進んでいく感覚は一問一問解いていたときと比べるとたまらないほど気持ちいいからです。ここで重要なのは問題集を最後までやり通すことです。全部一気にやろうと先を考えると長い。長いからモチベーションもイマイチ上がらない。だんだんレイアウトや問題、解説に飽きてくる。いい問題集が新しく出たから…。結局最後まで行かずに途中で挫折する。そのようなことでは学力は向上しません。だからまずは一周、解いてみて達成感を味わいましょう。ただし、終わったらすぐに2周目に入ってください。この2周目というのは、実は復習も兼ねています。1周目に解いた問題の類題が少なからず出てくるはずですし、前回解いた問題が嫌でも目に入ります。薄い記憶を上書きしていくつもりでいきましょう。おそらく1周目よりは少し早く終わるはずですが、そして、同じように3周目をします。ここまでくるとかなり慣れているはずですから、余裕があれば、1回目にやった問題の復習もしながらやりましょう。簡単な問題は回数を増すごとに除外していけばいいので、結局難しい問題が残ります。そのころには難しい問題に対応できる学力がついているはずですが、

参考書、資料集の活用

教科書内容をある程度理解していくと、それに付随する関連知識の不足に不安を覚えるようになると思います。例題レベルを解く知識はあるけれど、その類題でちょっと違うこと聞かれたら答えられないのではという風に…。

「関連知識」…例えば、英単語とかでは一つの意味しか知らなかったけど、派生語として違う意味もあったり、新たな熟語として新たな意味が生まれていたりするということ。

そこで今までに身につけた知識の理解を深めるとともに、その関連知識を参考書から学ぶこともしていきましょう。ただし、注意点が1つ。問題集と同じで、初めから完璧に見ようとしないこと。何度も読んでいく上で穴を徐々になくしていけばいいからです。まずは、今まで教科書から得た知識の確認と理解。そして、その関連知識の習得をしていきましょう。

辞書の活用

辞書で単語を調べるのは面倒くさい。考えたり、覚えたりする勉強が少なくなり実力がつかない。そう思っていないでしょうか。“辞書は必需品だから”という思い込みだけで、上手く辞書を活用できているでしょうか。使い方次第で辞書は最良の教師になります。辞書をひいたら、単語の意味だけを調べるのではなくて、例文まで読むようにしましょう。単語の意味だけではなく、発音記号や文法、例文や例外など、あらゆる情報が辞書には詰め込まれているからです。辞書と上手に付き合うことは、学習において最も効果的な学習法といえます。単語を調べるだけでは、辞書を最大限に活用しているとは言えません。発音や語法的なものまで読み込むことで辞書を身近なものにしていくのです。単語の意味を調べるために辞書を開いたら、その単語に関するひと通りの記述に目を通すことが大切です。小さな情報を拾い読みするだけでも、力として蓄積されていきます。じっくり長い時間をかけて辞書と付き合いましょう。

一通り読んでもらったでしょうか？もちろん、教科によっては異なる部分もあると思います。まずは、先生たち、もしくは周りのその教科ができる友達に聞いてみましょう。人は誰でも「できない！」「結果をだしたい！」と思うものです。「聞く恥ずかしさ」よりも「できない恥ずかしさ」の方が、恥ずかしいものですよ。

予告…7月9日は進研模試(全学年)があります。それに向けて…と言いたいところですが、まずは足下をしっかりと！…日頃の学習、毎日の授業に対して、受け身ではなく常に全力で取り組んでいきましょう。